

第1章 香川大学学生生活実態調査について

第1章 香川大学学生生活実態調査について

(1) 調査の目的

香川大学学生生活実態調査は、香川大学の学生がどのような条件のもとで、どのような意識をもって学生生活を営んでいるのかといった、学生生活の実態を把握し、大学の諸施策の基礎的資料として活用することを目的としています。この調査は、1986年（昭和61年）の第1回以来これまでに9回実施されており、それぞれ報告書にまとめられています。

第1回調査	1986年（昭和61年）	第2回調査	1989年（平成元年）
第3回調査	1992年（平成4年）	第4回調査	1994年（平成6年）
第5回調査	1996年（平成8年）	第6回調査	1998年（平成10年）
第7回調査	2000年（平成12年）	第8回調査	2002年（平成14年）
第9回調査	2004年（平成16年）		

この調査は、第1回から第3回まではおおむね3年ごとに実施してきましたが、社会人入学、外国人留学生の増加等多様化する学生や、急速に変化する大学の教育環境を明確に把握するため、第4回からは、2年ごとに実施することとしました。

調査内容についても、経済状況などの基礎的な調査と、その時々におけるトピックス的なテーマに関する調査を、交互に実施することとしました。

今回（第10回）は、基礎的な調査を行う年度ですが、時代に即応して、一部新しい項目を追加しました。

(2) 調査実施期間

平成18年10月中旬～11月17日

(3) 調査の対象と方法

調査に当たっては、無作為抽出法を採用し、学生名簿から、全学生の1/5を無作為にピックアップしました。（抽出率は1/5）

調査票の配布・回収は、各学部の学務係（医学部は学生係）に依頼しました。学部別、入学年度別、性別から見た調査対象学生数、有効回収数、回収率及び抽出率は、表1に示すとおりです。

調査対象は、これまでの調査と同様、学部学生（夜間主コース学生を除く）に限定し、大学院学生は除きました。

表1 調査対象学生数と有効回収数、回収率及び抽出率

区 分		学生数(人)	対象学生数(人)	有効回収数	回収率	抽出率
学部別	教 育 学 部	947	193	106	54.9 %	11.2 %
	法 学 部	746	152	98	64.5 %	13.1 %
	経 済 学 部	1,363	279	131	47.0 %	9.6 %
	医学部医学科	573	120	86	71.7 %	15.0 %
	医学部看護学科	254	54	42	77.8 %	16.5 %
	工 学 部	1,202	246	147	59.8 %	12.2 %
	農 学 部	701	145	101	69.7 %	14.4 %
入学年度別	平成 18 年度	1,258	258	174	67.4 %	13.8 %
	平成 17 年度	1,269	257	161	62.6 %	12.7 %
	平成 16 年度	1,330	273	193	70.7 %	14.5 %
	平成 15 年度以前	1,726	359	132	36.8 %	7.6 %
	平成 14 年度	94	20	24	120.0 %	25.5 %
	平成 13 年度以前	109	22	27	122.7 %	24.8 %
性別	男 子	3,467	711	387	54.4 %	11.2 %
	女 子	2,319	478	324	67.8 %	14.0 %
合 計		5,786	1,189	711	59.8 %	12.3 %

※1 抽出率は、学生数に対する有効回収率を%で表したものです。

※2 法学部及び経済学部の夜間主コースの学生は除いています。

(4) 調査の内容及び項目

調査項目の設定に当たっては、経済状況などの基礎的な事項に加え、新たに、学生のキャリア意識についての項目を追加しました。また、時代に即応して、一部設定項目の見直しを行いました。

設定項目は、「Ⅰ. 基本的事項について」「Ⅱ. キャンパスライフについて」「Ⅲ. 個人生活について」「Ⅳ. その他」の4つに分類しています。その分類のもとで構成された質問内容及び質問数は、以下のとおりです。合計で79問になっています。

- Ⅰ. 基本的事項 : 属性 (4問)、通学方法 (2問)、経済状況 (3問)
- Ⅱ. キャンパスライフ : 入学動機 (4問)、学業 (13問)、課外活動 (6問)、就職 (10問)、学生のキャリア意識 (2問)
- Ⅲ. 個人生活 : 住居 (4問)、健康 (12問)、アルバイト (6問)、ボランティア活動 (4問)
- Ⅳ. その他 : 1問

(5) 集計と報告書の作成

回収した調査票はエクセルで集計処理を行い、単純集計とクロス集計（学部別、学年別、性別）を行いました。

報告書の作成に当たっては、学生生活実態調査部会構成員が分担執筆し、一目で理解できるように、質問ごとに帯グラフによる図を掲載しました。

データを正確に残し、将来においても利用可能とするように、巻末には、従来と同様に、学部別の単純集計結果を載せました。（第3回報告書からこのような形式を採用しています。）報告書の本文は繁雑になるので実数は削除し、割合（パーセント）を中心に掲載しました。細部の数値については、巻末の資料を参照願います。

本文自体は分量も多くなるので、項目ごとに簡単な要約を付け加えています。